



知名 宏師

知名御多出横代表

幼稚園のころから工作が好きで小学生雑誌の付録を切り抜いてロボットを作ったり、仲間も雑誌を買おうと必ず僕に作らせ、みんなで遊んだ。

小学生のころはゴム動力のフリーフライトにはまり、最初に作った飛行機が運動場のしからはしまで飛んで感激したことを思い出す。4年生の時、鋳造ラジオを先輩の家で聞き、ゲルマニウムラジオ作りは6年生まで続いた。

中学に入ると別の先輩の家で真空管アンプを聞いて感激し、即真空管アンプを作り始める。中学3年の時に大きな音を鳴らして聞いていると、米屋の配達の人ちやんから「いい音だね」とほめてもらい「僕のアンプを作ってほしい」と制作を依頼されたこともある。

中部工業高校電子科へ入学すると、具志川市の江洲に住む友人の金城宏に興味深い所に連れて行かれた。そこはアメリカ軍の塵捨て場で、僕にとっては宝の山



知名 宏師

知名御多出横代表

小学6年生の頃、4歳年上の先輩で真空管アンプ作りの名人がいるとの噂を聞き、家を探してたどり着いたのが屋比久猛盛さんというかつこいお兄さんでした。

旧家は嘉手納村水釜の確か十区にあり、彼の部屋にはピカピカの山水電気のトランスがデーンと鎮座していました。土木作業のアルバイトでパーツを買いそろえたそうです。その頃はステレオではなくHi-Fiまたは高忠実度で、スピーカーは1個ですが低音はドーンと出て高音はチャカチャカ出るものです。今まで聞いた音とは全然違う音でびっくりしました。よし！中学生になると真空管アンプを作ると決意しました（その頃はラジオに毛の生えたようなものしかありませんでした）。

それから迷惑も顧みずほとんど毎日のように屋比久さんの家に通い続けました。彼の母親は、私を家族同様に迎え入れてくれました。



知名 宏師

知名御多出横代表

定電圧管6336の箱入り新品が10本も無造作に捨てられていた。6336のプレートはカーボンのため、金属スクラップとしての価値はゼロだった。普通真空管も捨てられていた。このプレートは希少金属のニッケルなので高価だ。今では1本で3万円もする。今から考えるとこうしたことがアメリカが財政破綻をする一因だと思える。

学生の身ではとても買えないパワートランススタも完動品がゴロゴロあった。テスター1本でダイオード、トランススタ、トライアックなど、使えるかどうかわか？一発で判断できる。高校2年に真空管を卒業し、トランススタへ移行してアンプを次々に作り始めた。真空管アンプと違いトランススタアンプは音に締まりがあり本物だと思っ

た。こうした若い時に学び、経験したことが私の音作りの原点であり、知恵のほとんどだ。

た。あるときは夕御飯をこ馳走になったり、休みの時は冷たいものをいただいたり。彼のお姉さんには果物をいただいたりもしました。家族全員が家族同様に私を扱ってくれました。感謝！感謝！

社会人になってからは、いつの頃から分らないが自然に盆正月には「うさぎも」を持って行くようになった。先輩のおかげで今の私の基礎ができました。自分の好きなことは、引つ込み思案の性格を真反対の積極的に変える力があるように思います。生き方の先生であり、迷いを払拭してくれる最良の友です。

南風

音作りの原点

南風

力を与えてくれた先輩



知名 宏師

知名御多出横代表

高校の2年間はみっちりトランススタアンプを作り続けたのですが、悲しいかな周りの先輩、後輩たちが皆アンプ作りを次々とやめていったのです。なぜならば、部品が高くしかも壊れやすい（ヒーターが無い）。

さて、本土では真空管6336のOTLアンプというものが流行っており、作ることにしたのですが、電源トランスが無いので焼けたトランスを分解して新たに巻き直しました。半年もかかって仕上げたので音出しがワクワクします。とても柔らかくて聴きやすい音ですが、本物ではなく悪く言えば締まりが無い音。例えるならばジュークボックスの音・ドンシャリ！

前後しますが、社会人になり修理専門で毎月1000台・2000台の修理をこなしていた当時のこと。例のごとく本土では出力管でプリアンプを作ることが流行り、早速6RA8という三極管を取り寄せて作ったら、マイクロニックノイズ

は、心を伝えるのと一緒である。1つのスピーカーから、どこまで奥行きのある音が出るか。実は、客の要望に答えることが、究極の答えにつながったのだ。

15年ほど前、ある方の依頼でハンビーターにあるレストランの音響を設置することになった。完成し引き渡しの段階になって、設計士から「カウンスター側で高音が聞こえない」とクレームが付いた。建物が海岸に面し、フロアが横に広がっているため、高音を真横に送る必要があったのだ。そこで、口径51mmの高音用スピーカーを3分の1ずつ面積で割って、それぞれ右、左、中央へと振り分けた。無事解決とあいなった。

南風

本物の音へ試行錯誤

南風

360度の音

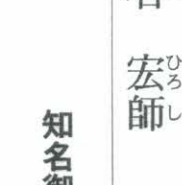
に悩まされました。真空管に触れるだけでガサガサ雑音がスピーカーから出ました。あらゆる方法で対策を講じたが解決できませんでした。真空管を箱に入れ砂でダンピング、グリース、オイル、鉛、パテなどなど。要するに空気を介して真空管をたたくので、地球上ではマイクロニックノイズを取ることが不可能なのです。

良い意味で残響が付加され豊かな音になります。いわゆる本物ではありません。ここでいう本物とは、ワンポイント録音で録った音楽のことです。マルチマイク録音で録ると、位相がずれて指揮者が居ないオーケストラと同じになり、バラバラでまとまりがなくなります。

35歳前後はまだまだ自分の色が出せなくて本土の情勢を頼りに試行錯誤を重ねていました。そのあと2500円もあるレコードプレイヤーを作り、工場から自宅まで運ぶのはなんと6人掛かり。往生しました。

でも不足だった。それが設置した途端、逆に高音が強くなり過ぎてしまい、絞ってやっとバランスが取れるほどだった。なるほど音の指向性と音量は完全に別の問題だ、と悟った次第。

夜間工事の照明も最近全方向のUFO型が出てきたが、昔はスポット型だった。スポットは目に直接当たるとまぶしくて向けた所だけが明るくなるが、UFO型は辺りが満遍なくはつきり見える。光でさえ、エジソンが白熱電球を發明してから130年余たつてからその特性にやっと気づいた。目に見えない音は気づくのに何百年かかるやら。通常のスピーカーの高音特性は約10度の広がりしかない。ところが本物のシンバルの音は360度、どこからでも聞こえるのだ。それを再現できる全方位の音の広がりを持つのが、パイプ型スピーカーなのだ。「前向きスピーカー」は実はステレオには使えない。それが私の持論である。



知名 宏師

知名御多出横代表

長男の小学校3年の時、誕生日にかこつけてラジオコン飛行機をプレゼントすることにしました。徹夜で仕上げた日曜日に読谷飛行場へ飛ばしに出かけたが、私のはまってしまった。その時気づいたのが、楽しみながら何かをやる時は、大変なことでも時間が過ぎるのがとても早いということだ。

その後、ラジオコンをきつかけに改善できそうなアイデアが浮かぶと即実行するようになった。スピーカーづくりで、溶接が良さそうと思い、即実行したが失敗。実は市販の溶接機を使用したため放電用の静電気が流れ半導体が壊れた。すぐに静電気なしの溶接機を製作し成功した。熱中し楽しんでいたので楽なのか、意外に簡単だった。

自分は電子屋のため機械に弱い。それを強化できたのがラジオコンだ。機械の仕組みを学んだことで、まさに鬼に金棒となった。子供たちにモノづくりを教える時は、ラジオコンを作らせる

こと遊びながら学ばせる。最初はキットをカットし接着し、磨いて、ペンキを塗り、機器を調整して飛ばす。子どもたちも楽しいから頑張れる。私も楽しみながら教えることができる。これはすべてのモノづくりに共通する。

小学5年生の頃、家業である牛乳屋の手伝いで配達をしていました。ある日、読谷村大木に住む方から「新しく牛乳を取りたい」と連絡が入り、自転車で行くと、いとこ、20歳前後の色の白い青年が待っていました。「裏に回りなさい」と言われて彼の部屋に行くことになりました。電気も、バッテリーもついてないラジオ（鉱石ラジオまたはゲルマニウムラジオ）のスピーカーから、大きな音で放送が流れていたのです。その頃の常識としては鉱石ラジオはイヤホンで聞くのが当たり前でした。ところがそれはアンテナ線をつないでただでスピーカーから音が鳴っているのです。不思議でたまりませんでした。彼は大学生だったので、実は家で病氣療養中だったため、鉱石ラジオを研究していたのです。彼にそのラジオを見せてくれと頼んだところ快く見せてくれました。そのカラクリは、クリス

南風

きっかけはラジオコン

南風

鉱石ラジオの思い出

知名御多出横のオリジナル作品は、すべてラジオコンを始めてからアイデアが浮かんだものだ。パイプ型スピーカーも、皆のために30分で考えて3日目出来上がった。視聴したが8坪のスピーカーとは思えない低音が出てビックリした。

前回紹介したレコードプレイヤーは、床を切つて掘ごたつを作り、地球へ砂を介して置くものだった。レコードに針を下ろし、ポリユームを上げてプレイヤーを足で蹴つてもスピーカーからはほとんど音が出なかった。普通は小指で軽くたたいただけでスピーカーからボーンと音が出てしまう。その性能は今でも世界一だと自負している。

そういう特別ないきさきがあった、私は小学生の頃はずっとゲルマニウムラジオを作り続けました。そのままでは朝起きるのにグズグズ起きていたのですが、その後ラジオが楽しみでばっ起きようになりました。人は感動すると、嫌なことも楽しみに変えてしまうのなのですね！

6年生になったある朝、彼の母親から「明日からはもう牛乳はいらないよ」と言われました。彼は天国に召されたのです。「知名牛乳」飲んでほしい、滋養をつけてほしいだったので、命を救うことばせませんでした。その時の死生観が今の私の生き方に多大な影響を与えているもの、思っています。

タルイヤホンの耳栓の部分に直径、長さとも10センチのメガホンがついていました。それによって、混濁もなく快適にラジオを聴くことができたのです。まさに常識破りです。胸がワクワクしてきました。そういう特別ないきさきがあった、私は小学生の頃はずっとゲルマニウムラジオを作り続けました。そのままでは朝起きるのにグズグズ起きていたのですが、その後ラジオが楽しみでばっ起きようになりました。人は感動すると、嫌なことも楽しみに変えてしまうのなのですね！